

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
 基本事業 れんがの保存と活用

事業名 **歴史的れんが建造物保存活用事業**

[0495]

部名	経済部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	対象
課名	商工労働課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>れんが建造物</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>れんが工場や窯業工場が栄華を誇った場所を保存することで、ふるさと意識の醸成や地域文化を次代に引き継ぐ。また、活用してもらうことで文化を身近に感じてもらう</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>旧ヒダ工場のほか、近代産業遺産を含む歴史的れんが建造物の保存、活用を行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	れんが建造物の物件数	件	1	1	1	1
対象指標2						
活動指標1	セラミックス交流会の開催回数	回	6	6	6	6
活動指標2						
成果指標1	歴史的れんが建造物の利活用件数	回	7	8	7	5
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	17,135	16,929	17,301	17,122
正職員人件費 (B)		千円	2,512	2,507	2,489	2,498
総事業費 (A) + (B)		千円	19,647	19,436	19,790	19,620

費用内訳	
21年度	委託料 26千円、工事請負費 470千円、公有財産購入費 16,805千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	れんが建造物が年々減少していくなか、戦後建てられた窯業施設としては江別市内で最も古い建物であり、後世に残すべき建造物と判断した。	事業を取り巻く環境変化	アンテナ・ショップ以外の利用計画は、建築基準法の縛りから全体の利用計画が確定しない限り小面積（一部分だけの利用計画）でも手がつけられない。そのためには、全体利用計画の決定と費用計算（一度に全体の改修は無理なので年次計画）が必要であるが、多くの利用計画案は費用対効果が望めないことが最大の障害である。
--------	--	-------------	---

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

歴史的価値という点では、評価指標値13項目のうち5項目しか該当しない建物である（築後50年以上、愛着度、往時の産業風景を表現している、ランドマークやシンボルが該当するが、レンガの街えべつを標榜する政策的要素が高いものである。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

れんがの保存がすべからく「レンガで出来たもの」なのか、なんらかの価値のあるレンガ物なのかは、判断が分かれる。保存決定にあたっては、有識者や市民の意見を聞き取り判断せざるを得ない。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

アンテナショップは各種集会の会場として使われたり、マスメディアの取材を受けることもあり「江別のれんが」のPRになっている。18年度から開催されている土佐の物産フェアが今年度も好評を得ている。19年度からは市内陶芸家の作品を展示販売するコーナーを常設している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

市が取得し保存するには、財政的に限界がある。民間活力（NPO等）で保有することが望ましいが、民間活力にも限界がある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

アンテナ・ショップ以外の活用をする場合、必ず予算が伴う